

# 生涯教育としての合唱活動「おかあさんコーラス」 団員と指導者の意識に関する調査研究

宮田 知絵\* , 熊谷 綾子\*\* , 岡田 孝\*\*\*

## 要約

日本の音楽の歴史に於いては、洋楽の世界での「ハーモニー」は重要なものと認識されておらず、明治以後の近代化の中で、斉唱から合唱行為へと徐々に活動の広がりが培われて来たと言える。そのような歴史背景を経て、今や「合唱」は多くの人々を魅了し広く愛好される活動である。中でも「おかあさんコーラス」活動は、現在の日本の合唱活動の中で大きな位置を占めている。本研究は、大阪府や和歌山県など計5府県の17の「おかあさんコーラス」団体を任意に抽出し、その団員と指導陣(計410名)に対しアンケート調査を実施。団員が合唱に求めるもの、活動に対する意識、指導者側に立つ人々が団員に求めるもの、そして願い、などを調査し集計した。それらに考察を加えた結果、団員も指導陣も過去に合唱経験を有する人々が「おかあさんコーラス」活動へ参加する割合が高いと言う共通性を見出した。一方で、指導陣は団員に対して、長く合唱を楽しむ気持ちや人間性と言う情緒を重視するのに対し、団員側はより高度な専門性を指導陣に期待している、という意識の違いを見出した。本研究は、今後それぞれの立場で合唱活動とどのように向き合うべきか、の一つの指針となるものと考えられる。

キーワード： 合唱指導者 おかあさんコーラス 合唱団員の意識

2010年9月30日受理(実践研究)

## 1. 序にかえて わが国の洋楽、そして合唱

わが国での合唱活動、とりわけ市民レベルでのアマチュア・コーラス活動の活発さには目を見張るものがある。欧米のキリスト教国に比べ日本では、キリスト教会で讃美歌を唱和したり、日曜学校で合唱を行うという人々は、国民全体から見れば決して多数派ではないといえる土壌の中、日本各地の職場で、また公民館で、地域で、合唱は盛んに行われ、また普段は特定の合唱団にこそ参加していないものの、年末の第九には何千、何万もの人が一同に集まって合唱を行うのも、今や年中行事となって定着している感さえする。奥忍の研究<sup>1</sup>では、趣味として合唱・歌唱活動に参加している人々の割合はアメリカの人口比12.3%を筆頭にカナ

ダの10.5%、そして日本はフランスの2.8%を上回る3.5%、とのデータをもとに、西洋様式の音楽と日本様式の音楽(民謡など)との受容感を考察し、学校音楽教育が合唱活動の発展に大きく寄与してきたことを述べている。

西洋に於いてはグレゴリオ聖歌などにも見られるように、単旋律の唱和から発した歌唱が、やがて拍をずらしてのポリフォニーの隆盛期を得て、その後ついに垂直線の和声によるハーモニーの醍醐味を加えた「合唱」と言う壮大な声楽ジャンルを獲得したのに対し、日本では音楽にハーモニーと言う概念を持つことなく、西洋とは異なった美意識での音楽(もともと音楽と言う言葉すらわが国には無かった)が発展してきた。

\*大阪健康福祉短期大学

連絡先

〒590-0014 堺市堺区田出井町2-8

大阪健康福祉短期大学 子ども福祉学科

E-mail: c.miyata@kenko-fukushi.ac.jp

\*\*大阪健康福祉短期大学

\*\*\*奈良教育大学教育学部

そのような日本への西洋音楽、洋楽の渡来については1549(天文18)年、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に來航、キリシタンの布教活動を開始したことがその第一歩と考えられる。その後の鎖国、切支丹禁令により、洋楽は平戸・長崎の出島の中と言う極めて限られた住地域の中でのみ、奏でられていたことは当然のことであろう。時を経て、明治維新後の文明開化という明治新政府の方針により、日本に洋楽が一気に取り入れられてくることとなったのである。日本の近代における唱歌教育の成立に関して極めてまとまった労作を発表した山住正己は、海老沢有道の論文『洋楽事始』で彼が唱えた「1552(天文21)年の降誕祭に周防山口で耶蘇会士が集まり、歌ミサ(missa cantada)を上げたのが、日本で演ぜられた合唱楽(choros)の嚆矢と見ている」との説を紹介しているが<sup>2</sup>、1551(天文20)年にはザビエルが大内義隆にクラヴォと呼ばれたピアノの前身たる楽器を献上したことや、子供たちによる聖歌隊を組織したこと、そして合奏などが隆盛していた記録を考えれば、既にこの当時に合唱が行われたとみなすこともそれほど唐突な考えではないだろう。しかしこれらは日本社会での出来事と言うより、極めて限られた地域での限られた宗教的行事の中での出来事であり、日本と言う広域な意味での体験とは言えない。限られた宗教的な集いではなく、日本社会での組織的な洋楽への取り組みは、伊澤修二による「音楽取調掛」の活動、明治新政府による洋楽の普及、教育施策の中から、これを採る作業を行うことが最も核心を見据えた方法かと考えられる。明治新政府による洋楽、中でも唱歌教育の中で、合唱はどのように取り上げられたのであろうか。これを考察するには、明治14年11月に音楽取調掛長、伊澤修二謹識として示され、同15年4月に刊行した『唱歌集及び掛図編成の事』<sup>3</sup>に示された内容から、合唱がどのように国民に教授されようとしたのか、を探ることが出来る。

そこでは、唱歌集初篇の第三十三曲まではすべてが単音唱歌であり、続く唱歌集第二編の第四十九曲までの中で「輪唱法 簡易なる歌曲大凡三曲を用いて二部輪唱を授く」<sup>4</sup>の文言が見出せるので、「唱歌」と言う教育の中ではこのあたりから「合唱」と出会う経験をすることになったと思われる。また続く唱歌集第三編に掲載された第九十一曲までの楽譜からは、第六十一曲の「古戦場」以後、楽譜上にはっきりと二部合唱の音符が掲載されているので、ここで「合唱」と子ども

たちが出会う経験を持ったと考えられよう。但し中村洪介は、「従来より洋楽はペリー來航以後の文明開化により、一気にわが国がこれを取り入れ発展させた、との認識が一般的であるが、それ以前に既に我が国において洋楽への関心や知識があった。明治初期に顕在化した音楽的諸現象一軍楽隊発足でも、雅楽伶人の洋楽伝習でも、音楽取調掛設置でも一は、江戸後期から維新期前後へかけて蓄えられた少なからぬ音楽的潜在エネルギーが運動エネルギーの形に変換した現れと筆者は考える」と、政府の指導による国民の洋楽の受容、と言う従前の立場とはまったく異なった見解を述べている<sup>5</sup>。

本論はわが国での合唱の開始を論考するものではないので、これらの歴史背景を心に置きつつも、合唱に関して心に留めておきたい出来事といえば、何より日本人の手による最初の本格的な合唱曲についてであろう。若干23歳の若さで惜しまれて没した瀧廉太郎の残した全45曲の中で、明治期の最高傑作の歌とも讃えられ、いまなお人々の愛唱する『花』こそ、瀧が当初より合唱曲として書き上げた作品なのである。さらに手元のいくつかの古い資料文献を見ると、明治期末から大正にかけて出版され、有名な『早春賦』が発表された吉丸一昌の全作詩と編集になる『幼年唱歌』『改題新作唱歌』全10巻<sup>6</sup>の中には、合唱曲の楽譜、もしくは合唱としても使用出来る楽譜を11曲見出すことが出来るのもまことに興味深い。昭和六年刊行の『最新女子音楽教科書1.2.』<sup>7</sup>では、その2において全54曲中、鑑賞補充曲として二部合唱曲が10曲(いずれも外国作品の旋律を基としている)、その他輪唱曲や簡易な部分二重合唱曲が3曲掲載されているのを見出すことが出来る。本書は昭和の最初期、およそ80年ほど以前のものであるが、最後の空白の五線紙のページ(筆者所蔵の実物)には、たどたどしい記譜で楽譜が書かれており、それは旧・市岡高等女学校の校歌であることから、この教科書が旧制高等女学校で用いられていたことが分かる。昭和初期の段階でも、人々が「合唱」を経験し、「合唱」に出会えたのは、高等女学校に通うことの出来た比較的恵まれた階層の子女にしか過ぎないことも、大よその察しがつくと思う。これらの歴史の出来事を出発として、現代のわが国での「合唱」、中でもとりわけ「おかあさんコーラス」と呼ばれる活動に視点をあて、今後の益々の発展のために指導陣と参加する人々の意識の共有を模索するため、本調査による考察と提言がこ

の分野への発展に資すればと願う。

なお、中・高・大・一般・職場・おかあさんの合唱団に所属する団員に対する意識調査としては、水田恵三・今井邦男・吉田巧弥の各氏が実施した東北地方での大規模な調査研究<sup>8</sup>が有る。今回のおかあさんだけを対象とした調査との比較も興味もたれるであろう。また高須 雅は“声楽度”という言葉をあてて、声楽ホルマンの面からの実験検証を行い、声楽度と言う能力に関しては、合唱活動を長く続けた団員と専門的歌手またはそれを目指す学生グループとの間には有意な差は認められないが、初心者のアマチュア合唱団員のグループとの間には、はっきりとした差が認められると、報告している<sup>9</sup>。このような点からも合唱活動を生涯にわたり長く継続することは、個体験の範囲の中でもアマチュアにも大きな実力の向上と、それに伴う自己充実感が獲得できる分野であると言える。高齢化社会の中で、孤立せず仲間を持ち、かつ充実感の持てる生涯学習の一つとしての、おかあさんコーラスの存在価値は更に見直されて行く事であろう。

## 第2章 アンケート調査の実施

おかあさんコーラス団体として活動している、大阪・兵庫・三重・和歌山・奈良の5府県、計17団体に對して団員用(表1)指導陣用(表2-1、2-2)の2種の質問紙によるアンケート調査を実施した。

実施時期：平成22年8月17～9月7日

実施方法：訪問による直接回収および郵送による協力依頼

調査対象人数(配布枚数)：団員 計374名(枚)、指導陣 計36名(枚)

回収枚数：団員 計283名(枚)、指導陣 計32名(枚)

回収率：団員 平均75%、指導陣 平均88%

今回の調査対象団体の中で(社)全日本合唱連盟に所属する合唱団は、団員数の多い順にその団名をA～I(9団体)までの略号で、所属していない団は、同様にJ～Q(8団体)の略号で以下表記する。

集計にあたって、各項目に於いて無回答であったものは集計から省いた。

表1 (団員に対するアンケート)

アンケートのお願い (匿名)																																								
<p>目的：現在、日本は少子化・高齢化・単独化が進んでいますが、その中で幅広い年齢層に支えられつつ、「おかあさんコーラス」の活動がより豊かに展開していければと願っております。今回、その願いのもとに団員個人と指導陣のそれぞれの意識調査を行い、今後の「おかあさんコーラス」の一層の発展のための指針を得ることを調査目的としています。何とぞご協力願いますようお願い申し上げます。なお、収集したアンケートは本目的のため以外には一切使用せず、学術資料として専門機関に提供させていただく予定です。</p> <p>以下の質問に対し該当すると思われる項目があれば必ずお答えください。また、その他の空欄にはご自由なご意見をお書き下さい。</p> <p>(1) 現在所属されている合唱団に入団して何年目になりますか? _____ 年目</p> <p>(2) 「おかあさんコーラス」に参加されたきっかけを教えてください(複数回答可)</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 学生時代に合唱経験があった</td> <td><input type="checkbox"/> 友人に誘われた</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> ストレス発散</td> <td><input type="checkbox"/> 趣味を伸ばしたかった</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 仕事上の付き合いから</td> <td><input type="checkbox"/> 上手な団員だから</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 演奏会を聴いて楽しそうと思ったから</td> <td><input type="checkbox"/> 練習を断れなかった</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 指導者の魅力</td> <td><input type="checkbox"/> 団員立の発起人である</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> おぼえていない</td> <td><input type="checkbox"/> 広報等を知った</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> その他(ご自由にお書き下さい)</p> <p>(3) あなたは現在所属されている団の他に、これまでどのような合唱経験をお持ちですか? (複数回答可)</p> <p><input type="checkbox"/> 小・中学校、高等学校、大学等でのクラブ活動</p> <p><input type="checkbox"/> 一般の女声合唱(おかあさんコーラスを含む) <input type="checkbox"/> 一般の混声合唱 <input type="checkbox"/> 経験なし</p> <p>(4) (3)で経験のある方にお聞きします。現在所属されている団と並行して、その活動を今現在も続けていらっしゃいますか?</p> <p><input type="checkbox"/> 続けている <input type="checkbox"/> 続けていない</p>	<input type="checkbox"/> 学生時代に合唱経験があった	<input type="checkbox"/> 友人に誘われた	<input type="checkbox"/> ストレス発散	<input type="checkbox"/> 趣味を伸ばしたかった	<input type="checkbox"/> 仕事上の付き合いから	<input type="checkbox"/> 上手な団員だから	<input type="checkbox"/> 演奏会を聴いて楽しそうと思ったから	<input type="checkbox"/> 練習を断れなかった	<input type="checkbox"/> 指導者の魅力	<input type="checkbox"/> 団員立の発起人である	<input type="checkbox"/> おぼえていない	<input type="checkbox"/> 広報等を知った	<p>(5) あなたが「おかあさんコーラス」に求める楽しみは? (複数回答可)</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> ハーモニー作り</td> <td><input type="checkbox"/> 色々な舞台に立てる</td> <td><input type="checkbox"/> ストレス発散</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 仲間が良い</td> <td><input type="checkbox"/> 多くの歌が歌える</td> <td><input type="checkbox"/> 仲間との付き合いや達成感</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 普段着られない衣装を着ることが出来る</td> <td><input type="checkbox"/> 自分が注目されたり褒められたりする</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 団体活動としての旅行が出来ると</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> その他(ご自由にお書き下さい)</p> <p>(6) 現在の団を退会しようと思ったことはありますか?</p> <p><input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> たまにある <input type="checkbox"/> しばしばある</p> <p>(7) (6)で「たまにある」「しばしばある」と回答された方にお聞きします。その理由は何? (複数回答可)</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 団内の人間関係</td> <td><input type="checkbox"/> 体力・気力の消耗</td> <td><input type="checkbox"/> 練習が難しい</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 曲が難しい</td> <td><input type="checkbox"/> 家庭の事情(介護・その他)</td> <td><input type="checkbox"/> 仕事との両立が難しい</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 経済的事情</td> <td><input type="checkbox"/> 希望するパートで歌えない</td> <td><input type="checkbox"/> 劇場への不満</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> その他(ご自由にお書き下さい)</p> <p>(8) あなたが「おかあさんコーラス」の指導陣に対して重要視することは? (複数回答可)</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 優しくやんちゃなどの人間的な魅力</td> <td><input type="checkbox"/> 自分たちの能力に合った適切な指導</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> より優れた音楽表現を行うための指導力</td> <td><input type="checkbox"/> 見聞・経験</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 合唱団の統率力</td> <td><input type="checkbox"/> 人間として深く共感できる相手</td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> その他(ご自由にお書き下さい)</p> <p>(9) あなたの年代は?</p> <p><input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代 <input type="checkbox"/> 90代</p> <p>(10) あなたの「おかあさんコーラス」での合唱経験年数を教えてください _____ 年目</p> <p style="text-align: right;">アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。</p>	<input type="checkbox"/> ハーモニー作り	<input type="checkbox"/> 色々な舞台に立てる	<input type="checkbox"/> ストレス発散	<input type="checkbox"/> 仲間が良い	<input type="checkbox"/> 多くの歌が歌える	<input type="checkbox"/> 仲間との付き合いや達成感	<input type="checkbox"/> 普段着られない衣装を着ることが出来る	<input type="checkbox"/> 自分が注目されたり褒められたりする		<input type="checkbox"/> 団体活動としての旅行が出来ると			<input type="checkbox"/> 団内の人間関係	<input type="checkbox"/> 体力・気力の消耗	<input type="checkbox"/> 練習が難しい	<input type="checkbox"/> 曲が難しい	<input type="checkbox"/> 家庭の事情(介護・その他)	<input type="checkbox"/> 仕事との両立が難しい	<input type="checkbox"/> 経済的事情	<input type="checkbox"/> 希望するパートで歌えない	<input type="checkbox"/> 劇場への不満	<input type="checkbox"/> 優しくやんちゃなどの人間的な魅力	<input type="checkbox"/> 自分たちの能力に合った適切な指導	<input type="checkbox"/> より優れた音楽表現を行うための指導力	<input type="checkbox"/> 見聞・経験	<input type="checkbox"/> 合唱団の統率力	<input type="checkbox"/> 人間として深く共感できる相手
<input type="checkbox"/> 学生時代に合唱経験があった	<input type="checkbox"/> 友人に誘われた																																							
<input type="checkbox"/> ストレス発散	<input type="checkbox"/> 趣味を伸ばしたかった																																							
<input type="checkbox"/> 仕事上の付き合いから	<input type="checkbox"/> 上手な団員だから																																							
<input type="checkbox"/> 演奏会を聴いて楽しそうと思ったから	<input type="checkbox"/> 練習を断れなかった																																							
<input type="checkbox"/> 指導者の魅力	<input type="checkbox"/> 団員立の発起人である																																							
<input type="checkbox"/> おぼえていない	<input type="checkbox"/> 広報等を知った																																							
<input type="checkbox"/> ハーモニー作り	<input type="checkbox"/> 色々な舞台に立てる	<input type="checkbox"/> ストレス発散																																						
<input type="checkbox"/> 仲間が良い	<input type="checkbox"/> 多くの歌が歌える	<input type="checkbox"/> 仲間との付き合いや達成感																																						
<input type="checkbox"/> 普段着られない衣装を着ることが出来る	<input type="checkbox"/> 自分が注目されたり褒められたりする																																							
<input type="checkbox"/> 団体活動としての旅行が出来ると																																								
<input type="checkbox"/> 団内の人間関係	<input type="checkbox"/> 体力・気力の消耗	<input type="checkbox"/> 練習が難しい																																						
<input type="checkbox"/> 曲が難しい	<input type="checkbox"/> 家庭の事情(介護・その他)	<input type="checkbox"/> 仕事との両立が難しい																																						
<input type="checkbox"/> 経済的事情	<input type="checkbox"/> 希望するパートで歌えない	<input type="checkbox"/> 劇場への不満																																						
<input type="checkbox"/> 優しくやんちゃなどの人間的な魅力	<input type="checkbox"/> 自分たちの能力に合った適切な指導																																							
<input type="checkbox"/> より優れた音楽表現を行うための指導力	<input type="checkbox"/> 見聞・経験																																							
<input type="checkbox"/> 合唱団の統率力	<input type="checkbox"/> 人間として深く共感できる相手																																							

表2 - 1 指導陣に対するアンケート（表面）

アンケートのお願い（匿名）	
<p>目的：現在、日本は少子化・高齢化・核家族化が進んでいますが、その中で幅広い年齢層に支えられつつ、「おかあさんコース」の活動がより豊かに展開していければと願っております。今回、その願いのもとに副員個人と指導陣のそれぞれの意識調査を行い、今後の「おかあさんコース」の一層の発展のためへの提言を得ることを調査目的としています。何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。なお、掲載したアンケートは本目的のため以外には一切使用せず、学術資料として専門機関に発表させていただきます。</p> <p>以下の質問に対し該当すると思われる項目があれば必ずお願ひいたします。また、その他の空欄にはご自由なご意見をお書き下さい。</p> <p>(1) あなたご自身が、合唱団員として活動された経験はありますか？  <input type="checkbox"/>ある _____ 年間      <input type="checkbox"/>無い</p> <p>(2) 今までにご指導されたことのある合唱団との関わり、お立場は？（複数回答可）  <input type="checkbox"/>指揮（指導）    <input type="checkbox"/>ピアニスト    <input type="checkbox"/>ヴォイストレーナー  <input type="checkbox"/>その他（ご自由にお書き下さい）</p> <p>(3) 現在の団をご指導されて何年目になりますか？ _____ 年目</p> <p>(4) 今まで指導陣としてどのような形態の合唱団に関われましたか？（複数回答可）  <input type="checkbox"/>一般の男声合唱      <input type="checkbox"/>一般の女声合唱（お母さんコースを含む）  <input type="checkbox"/>一般の混声合唱      <input type="checkbox"/>小中学校、高等学校、大学等のクラブ活動での合唱  <input type="checkbox"/>地域の公民館活動などで、児童・生徒を対象とした合唱</p> <p>(5) 「おかあさんコース」に関わられるようになったきっかけは？</p>	<p>(6) 「おかあさんコース」のご指導をやめようと思ったことはありますか？  <input type="checkbox"/>ない    <input type="checkbox"/>たまにある    <input type="checkbox"/>しばしばある</p> <p>(7) (6) で「たまにある」「しばしばある」と回答された方、その理由は？（複数回答可）  <input type="checkbox"/>やりがいがない    <input type="checkbox"/>人間関係のストレス    <input type="checkbox"/>情報や失う    <input type="checkbox"/>体力が無い  <input type="checkbox"/>時間が無い    <input type="checkbox"/>経済的に労働の対価として働かない  <input type="checkbox"/>自分の思う合唱活動がなかなか出来ない    <input type="checkbox"/>良い人材に恵まれない  <input type="checkbox"/>その他（ご自由にお書き下さい）</p> <p>(8) あなたはどのようなときに指導陣として満足感や喜びを感じますか？（複数回答可）  <input type="checkbox"/>自分の思う合唱音楽が構築出来たとき    <input type="checkbox"/>団員さんとの良き人間関係を感じるとき  <input type="checkbox"/>経済的に満足感が得られたとき    <input type="checkbox"/>人から称賛を受けたとき  <input type="checkbox"/>色々な舞台に立てること    <input type="checkbox"/>楽音進行が出来るとき  <input type="checkbox"/>一人では出来ない音楽活動の充実感  <input type="checkbox"/>その他（ご自由にお書き下さい）</p> <p>(9) あなたは「おかあさんコース」の団員さんに何を期待しますか？（複数回答可）  <input type="checkbox"/>楽しさや興しみなどの人間的魅力    <input type="checkbox"/>自らが理想とする合唱活動への貢献  <input type="checkbox"/>音楽的な能力    <input type="checkbox"/>合唱経験    <input type="checkbox"/>長く継続する意思  <input type="checkbox"/>その他（ご自由にお書き下さい）</p> <p>(10) あなたはご指導されている団の運営（運営・練習方法・パート編成・経済的側面）に関するスタッフの人数などについて、全ての決定権を握っておられますか？  <input type="checkbox"/>強い決定権を持っている    <input type="checkbox"/>やや持っているといえる    <input type="checkbox"/>持っていない</p>
（裏へ続く）	

表2 - 2 指導陣に対するアンケート（裏面）

<p>(裏より続く)</p> <p>(11) (10) で決定権を「やや持っている」「持っていない」と答えられた方にお聞きします。あなたは強い決定権を持ちたいと思っていますか？  <input type="checkbox"/>思う    <input type="checkbox"/>思わない    <input type="checkbox"/>どちらでもよい</p> <p>(12) (11) で「思う」「思わない」と答えられた方にお聞きします。ご自身の望まれることをご自由にお書き下さい。</p> <p>(13) あなたが現在ご指導されている「おかあさんコース」の団は、月平均で何名の団員さんが所属しているでしょうか？  <input type="checkbox"/>8-15名    <input type="checkbox"/>16-21名    <input type="checkbox"/>22-27名    <input type="checkbox"/>28-33名    <input type="checkbox"/>34名以上</p> <p>(14) あなたが現在ご指導されている「おかあさんコース」の団は、どのような活動に積極的に取り組まれていますか？（複数回答可）  <input type="checkbox"/>地域の病院や老人介護施設などへのボランティア活動    <input type="checkbox"/>地域行事への参加  <input type="checkbox"/>保育所や幼稚園、学校等での演奏訪問活動    <input type="checkbox"/>定期的な演奏会の開催  <input type="checkbox"/>コンクールや合唱大会などの大きな舞台への出場  <input type="checkbox"/>その他（ご自由にお書き下さい）</p>	<p>(15) 「おかあさんコース」に関わられる以前の音楽のご経験についてお書き下さい。（複数回答可）  <input type="checkbox"/>音楽学校等の専門機関で指揮を専攻した    <input type="checkbox"/>音楽学校等の専門機関で声楽を専攻した  <input type="checkbox"/>音楽学校等の専門機関で器楽を専攻した    <input type="checkbox"/>音楽学校等の専門機関で作曲、編曲を専攻した  <input type="checkbox"/>ブラスバンド、その他の合唱団員としての活動を経て指導者となった  <input type="checkbox"/>音楽経験は全くなかったが、クラブ活動等の機会をきっかけに指導者となるようになった  <input type="checkbox"/>その他（ご自由にお書き下さい）</p> <p>(16) あなたのご指導されている団は創立何年目ですか？ _____ 年目</p> <p>(17) 現在、あなたのご指導されている「お母さんコース」の団は合唱団員に加盟していますか？  <input type="checkbox"/>加盟している    <input type="checkbox"/>加盟していない</p> <p>(18) あなたのご年代を教えてください。  <input type="checkbox"/>20代    <input type="checkbox"/>30代    <input type="checkbox"/>40代    <input type="checkbox"/>50代    <input type="checkbox"/>60代    <input type="checkbox"/>70代    <input type="checkbox"/>80代以上</p> <p>(19) あなたご自身が合唱の指導者として活動された経験年数を教えてください。          _____ 年間</p>
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。	

## 第2章 - 1 団員へのアンケート調査の結果

### 項目(1)現在所属している団への在籍年数

この項目に対して無回答の5名を除き、計278名の回答を得た。そのうち最も長い在籍年数を示したのは3年、次に5年、6年であり、これらで計98名・全体の約35%を占める。2乃至6年の在籍年数をみると計138名(49%)となり、これらでほぼ半数を占めていることがわかる。次に目を惹くのは6年から10年で計68名(24%)、また15年から20年の計36名で12%となっている。20年以上40年の長い在籍者の数も50名(18%)を占めていることがわかる。

### 項目(2)「おかあさんコーラス」に参加したきっかけ

表3 「おかあさんコーラス」に参加されたきっかけを教えてください(複数回答可)

学生時代に合唱経験があった	100	友人に誘われた	141
ストレス発散	56	趣味を持ちたかった	93
仕事上のつきあいから	2	上手な団だから	15
演奏会を聴いて楽しそうだとおもったから	41	勧誘を断れなかった	7
指導者の魅力	105	団創立の発起人である	10
おぼえていない	0	広報等で知った	16
その他	28	無回答	1

個人の内心から発する動機と考えられる「ストレス発散」「趣味を持ちたかった」「広報で知った」に該当する人数が計165名(27%)で最も多くの数字を示した。その他への自由記述には「歌うことが好き」「コーラスへの興味」「生きがいがづくり」などがみられ、これらも同様な情動と考えられるので、これら28名を加えると193名(31%)となる。次に多くの数字を示したものが、「友人に誘われた」「勧誘を断れなかった」という他者からの働きかけが動機となった148名(24%)となる。

その次に「上手な団・・・」「演奏会を聴いて・・・」「指導者の魅力」のこれらの項目は団員の内から発した自発的な動機と他者からの働きかけによってそれぞれの団の演奏を聴く機会に出会ったことによるものとも思われるが、この3項目の人数の合計は161名(26%)となる。

複数回答のため615の回答数が存在するが、これらのうち自発的、他者からの働き、その延長線上にある合唱とのふれ合い経験、の以上で502名となり、これは総回答数に対する82%の多数に達する。それ以外のきっかけとして注視したいのは学生時代の経験が100

名(16%)であり、以上を合わせると98%の多数に達する。

### 項目(3) これまでにどのような合唱経験を持っているか

学生時代の経験、と回答した者が119名(33%)と上位を示すが、次いで「経験なし」が28%、「女声合唱」の経験ありが24%、「混声合唱の」経験がある人が13%であった。

### 項目(4)「おかあさんコーラス」と並行して行う合唱活動

この項目に対し、筆者たちが集計した結果「おかあさんコーラス」に参加している21%の人が並行して他の合唱活動にも参加していることが読み取れた。

### 項目(5)「おかあさんコーラス」に求める楽しみ

合計951の回答を得ることが出来た。総回答者数283名から考えると「おかあさんコーラス」に対して平均して一人3つ以上の楽しみを求めていることがわかる。これらの質問項目はその特徴により、複数の団員で楽しみを実感することができるもの、個人が実感するもの、そのどちらもの性格を持つもの、これらの活動に付随する楽しみ、という観点から以下のように分類することが出来る。

表4 あなたが「おかあさんコーラス」に求める楽しみは？(複数回答可)

① 複数で実感できる楽しみ	ハーモニー作り 仲間との付き合いや達成感
② 個人が実感するもの	ストレス発散 健康に良い 普段着られない衣装を着ることができる 自分が注目されたり褒められたりする
③ 複数または個人で楽しむもの	色々な舞台に立つことができる 多くの歌が歌える
④ 活動に付随する楽しみ	団活動としての旅行が出来る
⑤ その他	

項目①への回答341名(36%)／項目②への回答315名(33%)／項目③への回答266名(28%)／項目④への回答15名(2%)／項目⑤への回答7名(0.7%)

①～③の回答者数で922人(97%)を占める。

ここから入団時には「人からの勧誘」「趣味を持つことへの希望」と言った個人の内心からくる動機にウエイトがおかれていたが、合唱活動を行う中で「ハーモニーづくり」「達成感」など仲間との集団活動の喜びに目覚めていくことが見て取れる。

## 項目(6)(7)退会を考えたことがあるか/およびその理由

総回答者数 283 名の内、75 名 (27%) が「ある」と回答した。「たまに・・・」「しばしば・・・」と回答した人々の設問(7)への退会を考えた理由をまとめると表 5 のようになる。

表 5 「おかあさんコーラス」を退会しようとする理由

		(単位:人数)	
団内の人間関係	7	体力・気力の問題	28
練習が厳しい	7	曲が難しい	6
家庭の事情(介護・その他)	21	仕事との両立が難しい	10
経済的事情	5	希望するパートで歌えない	5
指導陣への不満	5	その他	12
無回答	4		

総数 106 の回答の中で大きく目立つのは「体力・気力・・・」「家庭の事情」の 2 項目で、合計 49(46%)を占めている。今日の社会が直面している高齢化や介護の問題が「おかあさんコーラス」の活動の継続にも影を落としていることがうかがえる。

それ以外の「団内の人間関係」「練習が厳しい」「仕事との両立が難しい」「経済的事情」「希望するパートで歌えない」「指導陣への不満」のそれぞれを理由として挙げた人々はそれぞれ約 5%~9%の範囲にとどまり退会理由の大きな要因とはなっていないことがわかる。しかし、アンケートで準備した回答選択肢の「体力・気力」「家庭の事情」「その他」の 3 項目を除く「団内の人間関係」から「指導陣への不満」全ての項目を集計すると 45 名(42%)と大きな数字を占め、これらが退会の原因となることを指導陣は心に留めておくべきである。

「その他」の自由記述をみると「単なる楽しみから真剣な取り組みへの希望」「曲の選曲や目指す方向との違い」などが見られ、より高度な合唱を目指すために必然的に練習が厳しくなり、それを難しいと感じる団員の数とほぼ均衡している退団動機への問題を孕んでいることが解る。入団者が退団を考える理由には、現代の社会が抱えている諸問題だけではなく、厳しさを伴っても上達したいか、出来ることならば厳しさを伴わずに楽しさを追求したいか、の相反する選択肢が存在し、団の目指す方向性へ大きな影響を及ぼしかねない。

## 項目(8)「おかあさんコーラス」の指導陣に対して重要視すること

この項目の 757 の回答に対し、上位を占めたのは「優しさや親しみ・・・」「自分たちの能力に合った・・・」「より優れた音楽表現・・・」の 3 項目が合計で 524 名(68%)と多数を示している。反対に「見識・経験」の 55 名(7%)「合唱団の統率力(11%)」「深く共感出来る・・・(12%)」の回答から、合唱団の団員が指導者に期待することは、指導能力や音楽性に関することが大きなウエイトを占めていることが解る。

また、その他の自由記述に「指揮者のレベルアップ」や「指導者のより高度な音楽能力と指導力」などが見られ、ここでも指導者に対する高度な専門性を期待する気持ちがみられた。

## 項目(9)団員の年代構成

子育てが終わって自分の人生を考えようとする世代・熟年世代の 50~60 代 163 名(58%)が最も多く、続いて 70 代が 62 名(22%)、このように 50 代~70 代の人々が 225 名(80%)と殆どを占めていることがわかる。それに対し 30 代~40 代の数は僅か 49 名(17%)で、育児や教育、仕事といった形で社会に参加している世代は「おかあさんコーラス」に参加している割合が少ない。この結果から第二の人生の模索時期にある女性によって「おかあさんコーラス」が支えられている、とすることができよう。

## 項目(10)「おかあさんコーラス」での合唱経験年数

この項目ではサンプルとなった A~Q までの 17 団体の活動年数が最短 3 年~最長 42 年という開きがあるため「おかあさんコーラス」への所属経験年数の平均値を導き出すことは意味を持たない。そこで一例として創立 20 年前後(22 年~26 年)の 4 団体(B・C・E・K)を調査してみると、B 団体では創立が 24 年なのでその歴史の半数以上である 13 年以上の経験がある人の数が 54%、以下同様に C 団体(25 年)では 64%、E 団体(22 年)では 40%、K 団体(26 年)では 56%となり、40%~64%の人々が、その合唱団の歴史の大部分に参加している。(表 6 参照)

大雑把に見れば特別な事情の無い限り、約半数の人々は入団した団で「おかあさんコーラス」活動を継続するとみなすことができよう。

表6 おかあさんコーラスでの合唱経験年数

(単位:人数)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	小計	J	K	L	M	N	O	P	Q	小計	合計
1年未満	2					1	1			4	3	1				1			5	0
1年	7					1			1	9	1		1						2	11
2年	1			1				1		3			1	1			1	1	4	7
3年	3	1				2		1		7		1	1	4	1	1		2	10	17
4年			1		2			3	1	7				1	1		3		5	12
5年	4	1	1	1	4	1	2	4	1	19	2				5				7	26
6年	1	1	3					4		9	1	1				1		1	1	14
7年	1	1		1		1	4		2	10	1								1	11
8年		1							1	2	2	1	1		1				5	7
9年	1			1		1				3	2		1					1	4	7
10年		3	3	2	3	1			1	13	4		1	1			2	2	10	23
11年				1						1		1							1	2
12年		1			1			1		3		3							3	6
13年		2							3	5	1	1			1				3	8
14年	1	1	1	1			1			5			1			1			2	7
15年	3	2	2	1		3	2		2	15	3		3	1	2				9	24
16年				1						1									0	1
17年		1							1	2							1		1	3
18年			1						1	2	1							2	3	5
19年		1	1							2							1		1	3
20年		2		1	2		1		1	7		2		2					4	11
21年			7							7									0	7
22年		1	1	1	2					5									0	5
23年		3								3									0	3
24年										0		1				1			2	2
25年				2		1			2	5					1			1	1	6
26年										0		1				1			2	2
27年								1	1	1	1								1	2
28年			1	1					2	1	1								1	3
29年				2					2	2	2								2	4
30年			1						2	3	2	1			2				6	9
31~35年				3	1					1	5	1		1	2			1	5	10
36~40年									1	1					1				1	2
41~45年						1				1									0	1
46~50年										0									0	0
51~60年				1						1									0	1
60~80年										0					1				1	1
無回答	2	2		1				2		7					1	2		1	4	11
合計	26	24	22	23	19	13	11	14	22	172	22	14	12	16	13	9	12	11	111	283

## 第2章 - 2 指導陣へのアンケート調査

### 項目(1)合唱団員としての活動経験

調査の結果、指導陣の68%が合唱団員としての経験を経て指導者となったことが解る。このことから、指導陣は過去に自身が合唱団員として活動した人々が多いと言える。このことは前述した団員への調査結果に示された過去の合唱経験がその後の「おかあさんコーラス」への継続に結びつくのと同じように、過去における合唱活動はそれぞれの人々の後々の合唱活動への関与や参加と相似性が見られる。

### 項目(2)指導に携わったことのある合唱団との関わり、立場

調査対象となった指導陣計36名の回答の割合は、指揮(指導)44%、ピアニスト30%、ヴォイストレーナー25%である。

調査した17団中82%の合唱団が指揮者、ピアニストの2名体制で活動しており、ヴォイストレーナーを専門とする指導陣を配置する合唱団は僅か17%であった。また29%が常勤のピアニストを雇用せず、通常練習においては指導者がピアニストやヴォイストレーナ

ーの仕事に兼務していることがわかった。

### 項目(3)現在の団の指導年数

指揮者については、17団体中7団体(41%)が団創立から現在までの活動を担っていることがわかった。

### 項目(4)指導陣はどのような形態の合唱団と関わったことがあるか

「おかあさんコーラス」での指導経験を持つものが一番多く50%、次いで「小中学校、大学・・・」25%「混声合唱」20%であった。「男声合唱」「公民館等の地域活動」は、ともに1%であった。「おかあさん」「混声」の合計は70%の多数を占めていることがわかった。

### 項目(5)おかあさんコーラスに関わるきっかけ

指導者自身が呼びかけて合唱団を発足したのは僅か1名であった。残りの31名(97%)の指導陣が既に存在した団や主催者からの依頼、もしくは知人の紹介などで指導に携わっている。指導陣が合唱指導に関わるには、他者からの働きかけが大きなファクターを占めていると言えよう。

### 項目(6)指導をやめようと思ったことがあるか

この設問に対し「たまに思う」ものが6名(19%)「しばしば思う」が3名(9%)で、やめようと思ったことがある指導陣は全体の28%であった。その28%に属する指導陣について項目(19)の指導年数との関わりを関連させて更に細かく見ていくと、経験年数が13年以上の人々はやめようと思う割合が77%と高く、逆に経験年数が4年以下の指導陣はそのように思ったことがないという結果であった。

### 項目(7)「おかあさんコーラス」の指導をやめようと思う理由

前項の「おかあさんコーラス」の指導をやめようと思ったことがある合計9名の中で一番多い理由が「時間がない」(26%)であった。

「その他」の記述内には「仕事の時間との関係」をあげた指導陣が居た。つまり、指導陣にとっては合唱指導は生活を支えられる職業になってはいないためと考えることが出来る。次いで「人間関係のストレス」が20%「体力が無い」が13%であった。各回答にはこの3項目の組み合わせが最も多くみられた。

### 項目(8)どのような時に指導陣として満足感や喜びを感じるか

指導陣の全てが満足感や喜びを感じる動機を複数持っていることがわかる。その88の回答について考察すると表7に示すように選択回答は、複数で実感できるもの/個人が実感するもの/そのどちらもの性格を持つもの/活動に付随する楽しみに分類することができる。

表7 あなたはどのようなときに指導人として満足感や喜びを感じますか。

① 複数で実感できる楽しみ	団員さんとの良き人間関係が築けたとき 一人では出来ない音楽活動の充実感
② 個人が実感するもの	自分の思う合唱音楽が構築出来たとき 経済的な満足感を得られたとき 人から称賛を受けたとき
③ 複数または個人で楽しむもの	色々な舞台に立つことができる
④ 活動に付随する楽しみ	団活動としての旅行が出来るとき
⑤ その他	

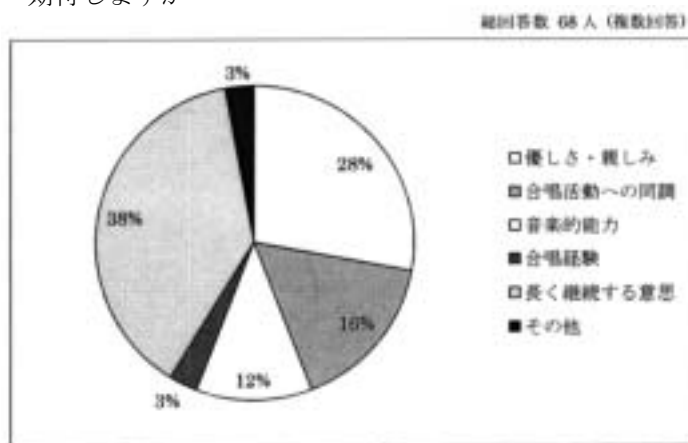
項目①への回答 55名(63%) / 項目②への回答 20名(23%) / 項目③への回答 10名(11%) / 項目④への回答 1名(1%) / 項目⑤への回答 2名(2%)

合唱の指導陣が感じる満足感や喜びは、合唱の本質であるメンバーとの良き交流や充実感といった活動で

あり、また「その他」の回答に見られるような「団員さんに楽しいと言ってもらえたとき」「合唱をして良かったと言ってもらったとき」「団員さんが出来なかったことが出来るようになったとき」などメンバーの喜びそのものが指導陣の喜びと同一そのものである、と言ってもよいのではないだろうか。

### 項目(9)「おかあさんコーラス」の団員さんへの期待

図1 あなたは「おかあさんコーラス」の団員に何を期待しますか



指導者が団員に期待することの上位は「長く継続する意思(38%)」「優しさや親しみなどの人間的魅力(28%)」「自らが理想とする合唱活動への同調(16%)」であり、「その他(3%)」での記述に見られる「仲間との良い関係を構築しようとする努力」「他団員との融和」や「長く歌い続けられる中で歌う喜びが生まれればベスト」など人間関係や音楽そのものを楽しむことを期待しており、これらの総計が85%と高い数字を占める一方「音楽的能力」「合唱経験」に期待する項目への総計は15%と低い。指導陣が団員に対してさほど専門的な能力を期待していないことがうかがえる。

### 項目(10)指導する団の運営権について

全てにおいて「強い決定権を持つ」ものは僅かに約9%であった。対して「持たない」ものが51%を占めている。やや持っているのは38%の分布を示した。

### 項目(11)決定権を持つことへの希望

96%の指導陣が決定権を持つことを強く望んではいない。項目(12)の自由記述には「団員さんたちの団」「音楽的側面は全権握っているのでは他は団にまかせべきである」「経済面など直接音楽に関係の無いもの

には関わらない方が望ましい」など指導陣の殆どが音楽についての側面さえ担うことができれば、その他の団の運営権については特に望んでいないことが伺える。

#### 項目(12)自由記述

上記に記載

#### 項目(13)団員の活動状況

「合唱」という語句については「大勢の人が各声部に分かれ一つの曲を同時にうたうこと(国語辞典・旺文社)」などのように人数の定義がなされていない。そこで本アンケート調査では便宜上 8～15 名、16～21 名、22～33 名、34 名以上と分類した。なお、国内で開催される主な合唱コンクール出場規定<sup>10</sup>を参照すると、合唱と呼ばれる活動の最低人数は 8 人程度と考えられよう。

本アンケート調査でのサンプル団の中には月平均して 34 名以上で活動する団は無く、一番人数が少なかったのは 28～33 名の団が 17%で、のこりは上記の人数分類において 23～29%とほぼ均等な数字を示した。合唱連盟に非加盟の「おかあさんコーラス」団体のわが国での全体数を把握することはほぼ不可能なため不明であるが、合唱連盟加盟所属団体については「おかあさんコーラス」で活動する平均団員人数は 26 人<sup>11</sup>と報告されている。本調査でも合唱連盟所属団体 9 団体のうち 22～27 名の活動団体が 44%と一番多く、報告と同様の結果になった。これに対し、合唱連盟に非加盟団体 8 団体のうち 22～27 名で活動する団体は僅か 12%で、一番多いものは 21 名以下での活動(75%)となった。合唱連盟への「おかあさんコーラス」加盟団体の減少、一団あたりの少人数化が報告されている<sup>12</sup>が、小規模・非加盟の「おかあさんコーラス」で活動する女性たちのエネルギーは計り知れない。

#### 項目(14)指導する団の活動状況

「地域行事への参加」が全体の 33%であり、合唱連盟への加盟、非加盟団体どちらにおいても一番上位であった。「定期的な演奏会」「コンクールや合唱大会・・・」がこれに続くが、合唱連盟加盟団体の 55%が「コンクールや合唱大会・・・」に参加しているのに対し、非加盟団体では 25%と約半数であった。合唱連盟への加盟団体が連盟主催の催しに積極的に参加する一方、非加盟団体はそれらの活動への参加が制限されるからだ

と思われる。反面「ボランティア」や「演奏訪問活動」など自由な活動は加盟団体のうち 33%が行っているが非加盟団体では 0%であった。また「定期的な演奏会の開催」といった自主開催することの出来る活動はほぼ同率であった。合唱連盟加盟の団体は積極的な演奏活動を行っているといえるが、同時に非加盟団体も連盟主催の活動には制限があるものの、加盟団体とほぼ変わらない活動の選択肢があることがわかる。非加盟団体も加盟団体も変わらず自らの意思で自由に選択した自主的な活動を行っていると言えよう。

#### 項目(15)指導者の音楽的経験

指導陣の中には長年、何らかの形で音楽に携わってきたことが指導陣として活動するきっかけになった人、から専門的な演奏活動に携わる人まで、様々な音楽の経験を持つ人がいることがわかる。

音楽学校出身者の場合、その専攻も声楽、器楽のように様々な分野に分かれている。合唱指導者になるためには特別な研修や免許等は必要がないので、自身の様々な音楽経験を指導力に生かして良き合唱指導者となることが期待される。

#### 項目(16)(17)合唱団創立以来の年数/合唱連盟加盟の有無

この項目に対する回答結果は本論の随所に反映させた。

#### 項目(18)(19)指導者の年代構成/および活動年数

20代～40代の人が 75%に対し、50代以上の人が 25%と少数である。団員の年代構成は 50～70 代が 78%と多かった点を考えると指導陣と団員とは同年代の集合体とは言えない。また、指導陣それぞれの活動年数については年代との相関性は見られなかった。

### 第 3 章 考察と結論

「おかあさんコーラス」に所属する団員の在籍年数は 2 乃至 6 年が約半数(49%)を占めている。

参加の動機は個人の内から発する動機、他者からの働きかけ、学生時代の経験を持つ人々が 97%の多数で構成されている。

学生時代に合唱経験があるものが 33%であるが、それらの経験がそのまま生かされるのではなく、入団するきっかけとなった当初の個人の内心からくるウエイ

トの重さから、活動を続けていく中でやがて集団活動の喜びに目覚めていくことが見て取れる。

退団動機を考えると、現代社会の抱えている諸問題とともに、「団内の人間関係」や「指導陣への不満」などを合わせると半数近くを占める大きな要因となることを指導陣は心に留める必要がある。

一方、団員は指導者に対して高度な専門性を期待しているのに対し、指導陣が団員に期待することは「長く継続する意思」であったり、「優しさや親しみ」など音楽を楽しむ気持ちを第一に置いている点で意識の乖離が見られる。

指導者は指揮法のテクニックのみならず、歌唱法、解釈、ピアノ演奏法、など広く音楽全般への知識と理解を持って、合唱音楽の表現を創造することが必要とされている。

「おかあさんコーラス」は50代～70代で支えられていること、また特別な事情の無い限り、約半数の人々は入団した団で「おかあさんコーラス」活動を継続していることがわかる。

過去における合唱活動の面からみると、指導陣も団員も共に過去の合唱活動経験を有するものがその後の合唱活動へと繋がっている同一性が見られる。入団した合唱団員の半分以上の人々が活動を共にする団は平均的な団と言える。それ以上の人数(70%)の人々が継続する団はそれなりの工夫がなされている魅力ある団、と評価されていると考えられる。継続率が40%を切る(3割以下)の団は、何がしかの問題や改善を要する箇所があるのではないかと、団の運営に携わる人や指導陣はそのあり方を省り見る必要が求められよう。

「経済的に労働の対価として報われない」ことを理由にあげたものが僅か1名であった点、どのようときに指導陣として喜びを感じるかとの問いに「経済的な満足感を得られたとき」への答えが0%であることからほぼ全ての指導陣が合唱指導を通じて合唱に関わるからこそ、が自らの喜びであるのだと言える。

(社)全日本合唱連盟に所属する加盟団体数は全部で5225、そのうち一般が1566、おかあさんコーラスは1457、次いで高等学校が857、と報告されている<sup>13</sup>。この数字からも日本の合唱活動にとって「おかあさんコーラス」の存在は極めて大きな位置を占めているといつて過言ではない。さらに、高齢化社会における孤立からの脱皮、自己実現の喜び、他者との共感、など生涯教育に果たす役割も大きなものがあると考えられる。

本調査のデータと考察が関係各位のますますの発展に資すれば幸いである。なお、本論執筆にあたっては宮田が第1章を、熊谷がアンケートの作成・集計・グラフ化の作業を、そして第2章と第3章は宮田、熊谷、岡田の3者が文案を協議し作成・執筆した。

最後に、調査にご協力頂いた団員の方々、先生方(とりわけ小島義英、福田丈太郎、藤原保信、宮脇由美、小倉尚子、辻みどり、山縣弘明、の各氏)はじめ、関係各位に心よりの感謝を表したい。

#### 【注】

1. 奥 忍、1996.『日本の合唱教育における西洋音楽の影響』「和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要」No.6 p.124
2. 伊澤修二、山住正己校注、1971.『洋楽事始』東洋文庫188. 平凡社 pp.331～332
3. 同上、同書に掲載された明治十四年『唱歌集及び掛図編成出版の事』による。p.114
4. 同上 p.122
5. 中村洪介、2003.『音楽における近代』「描かれた音楽」神戸市立博物館 p.7.
6. 吉丸一昌、明治45～大正4年『幼年唱歌』『改題新作唱歌』東京敬文館、但し多くは讃美歌のような4声体書法で、完全に合唱曲として明記されたものは第7巻の1曲だけである。
7. 北村季晴編、昭和6年「最新女子音楽教科書1.2.」日本唱歌出版社蔵版
8. 水田恵三・今井邦男・吉田巧弥、2010.『合唱活動とわたしたち第2報 2009 アンケート調査』「全日本合唱連盟東北支部60周年記念誌」pp.56～67.
9. 高須 雅、1993.『女声の“声楽度”』「日本音響学会誌49巻6号」p.387
10. (社)全日本合唱連盟、平成22年「第33回全日本おかあさんコーラス全国大会参加要項」p.1
11. (社)全日本合唱連盟、2010.「ハーモニー」153号 pp.56～57.
12. 同上
13. 同上

#### 【引用文献】

1. 山住正己、1967.『唱歌教育成立過程の研究』東京大学出版会
2. 伊澤修二、山住正己、校注 1971.『洋楽事始』／『唱歌

集及び掛図編成出版の事』／『洋楽事始音楽取調成績申報書』東洋文庫 188. 平凡社

3. 中村洪介、2003. 『音楽における近代』「描かれた音楽」神戸市立博物館

#### 【参考文献】

1. 奥 忍、1996. 『日本の合唱教育における西洋音楽の研究』「和歌山大学教育学部教育実践センター紀要」No. 6
2. 山住正己、1967. 『唱歌教育成立過程の研究』東京大学出版会
3. 伊澤修二、山住正己、校注 1971. 『洋楽事始』／『唱歌集及び掛図編成出版の事』／『洋楽事始音楽取調成績申報書』東洋文庫 188. 平凡社
4. 中村洪介、2003. 『音楽における近代』「描かれた音楽」神戸市立博物館
5. 北村季晴：編、昭和 6 年「最新女子音楽教科書 1. 2.」日本唱歌出版社蔵版
6. (社) 全日本合唱連盟東北支部、水田恵三・今井邦男・吉田巧弥、2010. 『合唱活動とわたしたち第 2 報 2009 アンケート調査』「全日本合唱連盟東北支部 60 周年記念誌」
7. 高須 雅、1993. 『女声の“声楽度”』「日本音響学会誌 49 巻 6 号」
8. (社) 全日本合唱連盟、平成 22 年「第 33 回全日本お母さんコーラス全国大会参加要項」
9. 水田恵三、今井邦男、佐藤淳一、吉田功弥、2010. 『合唱活動に関する調査研究』「尚絅学院大学紀要第 59 号」
10. 土屋 修、石塚将之、2000 年『特別養護老人ホームにおける音楽活動・実践についての 一考察』「日本赤十字秋田短期大学紀要第 5 号」
11. 青木八郎、磯部俊、他、昭和 33 年『合唱講座 1. 理論篇』音楽之友社
12. 磯田光一、1983. 『鹿鳴館の系譜』文芸春秋
13. 丸山圭三郎、平成 3 年『人はなぜ歌うのか』飛鳥出版社
14. 小泉文夫、1984. 『小泉文夫フィールドワーク、人はなぜ歌をうたうか』冬樹社
15. 小泉文夫、1977. 『音楽の根源にあるもの』青土社
16. 板坂元、1976. 『表現からみた日本文化』「日本語講座 4 日本語の語彙と表現」大修館書店
17. アーサー・ジェイコブズ編、平田勝、他訳、1980. 『合唱音楽その歴史と作品』音楽之友社
18. 皆川達夫、1996. 『合唱音楽の歴史』全音楽譜出版社
19. 津川圭一、昭和 25 年『合唱音楽の理論と実際』音楽之友社
20. 浅井敬壹、他、平成 19 年『全日本合唱連盟 60 年史』(社) 全日本合唱連盟
21. 星旭、1971. 『日本音楽の歴史と鑑賞』音楽之友社
22. 田辺正行、『データで見る合唱連盟(2010 年総会から)』「ハーモニー」153 号、社団法人全日本合唱連盟
23. 皆川達夫、2004. 『洋楽渡来考』財団法人日本伝統文化振興財団
24. 吉丸一昌、明治 45 年『幼年唱歌』東京敬文館
25. 吉丸一昌、大正二年『改題新作唱歌第 2～10 巻』東京敬文館
26. 乗杉嘉壽、日本教育音楽協會、昭和 9 年『本邦音楽教育史』第一書房
27. 金井紀子、2003. 「描かれた音楽展—あとかきにかえて—」『描かれた音楽』神戸市立博物館
28. 中村洪介、2003. 「近代日本洋楽史序説」東京書籍
29. 秋山龍英、昭和 41 年「日本の洋楽百年史」第一法規出版社
30. 北村清士、昭和 38 年「瀧廉太郎を偲ぶ」岡鶴堂印刷所
31. 櫻井 役、昭和 18 年「女子教育史」増進堂
32. 堀内敬三、昭和 28～32 年「音楽の泉 1～6 巻」音楽之友社
33. 文部省、昭和 7 年「新訂尋常小学唱歌／第一学年～第六学年」大日本圖書株式會社
34. 小長久子、1969. 『瀧廉太郎全曲集 作品と解説』音楽之友社
35. ロイ・C・ベネット、昭和 57 年『合唱読本—有能なコーラスメンバーになるために—』(株)東亜音楽社
36. 守屋博、1989. 『合唱へのいざない』新日本新書
37. 鵜川敬史、平成 17 年『入門合唱講座』鵜川敬史私家本福島民報社出版部

# **“Mothers’ Chorus”, Chorus Activity as a Lifelong Education -An Investigation of the Consciousness between Chorus Members and Teaching Staff-**

Chie Miyata\*, Ryoko Kumagai\*\*, Takashi Okada\*\*\*

## Abstract

European ‘Harmony’ in music had hardly been appreciated in Japanese music. With the modernization of our country, people who had been singing in unison, began to love chorus activities in the Meiji era. Activities of “mothers’ chorus” groups now hold an important position. This paper is based upon a survey for 410 people consisting of chorus members and teaching staff of 17 voluntarily-selected “mothers’ chorus” groups in 5 Prefectures including Osaka and Wakayama, to clarify what they think is the top priority in the activities. Analysis of the results has proved that most people in both sides decided to join the activities as a result of their long singing experience, but that they differ in opinions: members request highly professional rehearsals while teaching staff call for emotional elements, such as eagerness for enjoying chorus activities for a long time. The results suggest how they should continue their activities in their respective positions.

Key words: teaching staff of chorus, mothers’ chorus, consciousness of chorus members

---

\*Osaka college of Social Health and Welfare

Contact Address:

〒590-0014 2-8 Tadei-cho, Sakai-ku, Sakai City, Osaka

Osaka College of Social Health and Welfare

Department of Child Care and Education

E-mail: c.miyata@kenko-fukushi.ac.jp

\*\* Osaka College of Social Health and Welfare

\*\*\* Nara University of education